

## 2019年度 JROSG 海外出張支援報告書

朝日大学歯学部総合医科学講座外科学分野放射線治療科 田中 修

この度は JROSG 海外出張支援を受けまして ESTRO38 で「胃がんに対する止血照射：救済照射を含めた前向き試験」を発表して参りました。胃がんに対する止血照射の有効性は広く知られていますが、これまでの報告のほとんどが後ろ向き研究であり、至適線量が決まっています。今回は前向きに臨床試験を組み発表してきました。この度のご支援に深く感謝申し上げます。

学会名：第 38 回欧州放射線腫瘍学会 (ESTRO)

開催場所：ミラノ・イタリア

開催期間：2019 年 4 月 26 日～4 月 30 日

発表形式：紙ポスター

タイトル：

**Hemostasis radiotherapy for inoperable gastric cancer :  
A prospective study including salvage reirradiation**

発表要旨：

【目的】胃がんの出血に対する止血照射は有効であるが、至適線量および分割数などは後ろ向き研究でしか報告されていない。今回我々は線量および GTV を固定して前向きに検討した。

【方法】IRB および UMIN 登録。書面にて同意が得られた 28 例を対象に施行した。治療方法は胃がんの部位がどこであっても全胃をターゲット (GTV)、CTV マージンは 1cm、PTV マージンは 1cm で 20Gy/5fr の原体照射を施行。止血照射達成例の患者が再出血した場合は 15Gy/5fr の救済照射を施行。セットアップは朝食前絶飲食、ブスコパンを筋注後 CBCT にて確認し照射。救済照射は内視鏡にてクリップを 4 つ留置。GTV はクリップをもとに作成し上記と同様のマージンをつけて照射した。

【結果】治療期間中に他因子 (肺炎、脳梗塞) で亡くなった 2 名を除外。26 例中、22 例に止血効果を認めた。その後再出血をきたした患者 10 名中、6 名が救済照射を希望し 6 例とも効果があった。全体の全生存期間の中央値は 52 日間。単回照射群と救済照射を行った患者の全生存率は 54 日間と 36 日間 (有意差なし)。Grade3 以上の副作用は認めなかった。

【結語】20Gy/5fr の線量での制御率は良好であり副作用も軽度であった。また 6 例ではあるが 15Gy/5fr 再照射も有効であった。今後、登録患者数を増やし腫瘍の形態等で至適線量を調査する必要があると考えられた。